

紙ふうせん

KAMIFUSEN NO.61

成田市立図書館だより

第61号

2006年(平成18年)3月1日発行

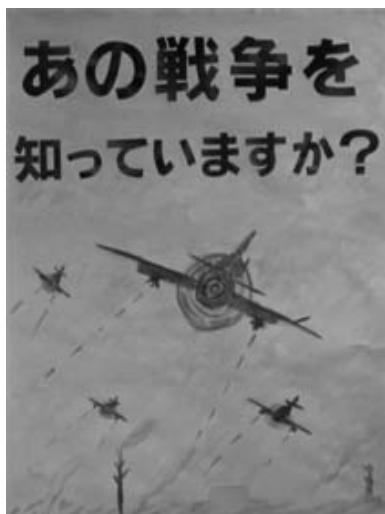
編集 成田市立図書館

〒286-0017 成田市赤坂1-1-3

0476-27-4646

FAX 0476-27-4641

<http://www.librarynarita.chiba.jp>



2005年7月～8月

2ヶ月ごとにテーマを決めて
一般・児童で本を
展示しています。



2006年9月～10月



2005年11月～12月

ホームページでも
紹介しています。
興味のある方は
ご覧ください。



2005年5月～6月



2006年1月～2月

一般書の展示

2005年3月～5月「いろ・色・彩」 6月～7月「中世～源平の時代」 8月～9月「島へ行きたい」
9月～10月「読書術」 11月～12月「古典への説い」 1月～3月「温泉めぐり」

平成17年度

文学講座 - 10月29日開催 -

「『うさぎとトランペット』 の宇佐子ちゃんと私」

中沢 けい氏

中沢けい先生は、小学校から高校まで千葉県館山市に在住され、『海を感じる時』で群像新人賞を、『水平線上にて』で野間文芸新人賞を受賞し、また、国内だけでなく、台湾の作家の方たちとの対談や現地の日本文学を学んでいる学生に講義をするなど、多方面で活躍されています。

翌日には、台湾へ出発されるというスケジュールの中、講演をしていただきました。

講演のタイトルにある『うさぎとトランペット』は『楽隊のうさぎ』の続編ともいえ、新聞に連載された作品です。『楽隊…』では、主人公が中学生から高校生へと成長する多感な年頃を描き時間は進んでいきますが、今回は小学生を主人公にしています。

この主人公は、新聞小説の主人公としては不向きな設定にしたそうです。主人公の“うさ子”自身には何もおこらず、彼女を取り巻く世界が動いていて、そこで起こっている色々なことをじっと見て、聞いて、感じ取りながら生きているという設定のもとに書いたということを、プラスバンドに関わる話も交えつつ、楽しく伺うことができました。

今後は、「文禄・慶長の役」のあとに、小西行長軍に伴われ来日した“おたあジュリア”を題材とし、現代小説のなかではあまり使われることのない格調のある言葉を用いた歴史小説を新聞に連載する予定だそうです。



中沢けい氏 主な著書

『海を感じる時』	講談社	1978年	『野ぶどうを摘む』	講談社 1981年
『女ともだち』	河出書房新社	1981年	『豆畑の夜』	講談社 1995年
『楽隊のうさぎ』	新潮社	2000年	『月の桂』	集英社 2001年
『うさぎとトランペット』	新潮社	2004年		

図書館講座

市史講座 - 11月19日開催 -

「近世房総の文化について」 - 成田参詣記をめぐって -

酒井 右二 氏（県立佐原高等学校教諭）

図書館での市史講座も今回で20回を数え、県立佐原高等学校教諭の酒井右二先生をお迎えし、「成田参詣記」の著者を中心としたお話をいただきました。

「成田参詣記」は、本の表紙には「成田名所図会」とありますが、中の扉の題が「成田参詣記」となっており、一般的にはそう呼ばれています。当日は、当館の原典で丁寧に紹介をいただきました。安政5年（1858）に刊行され、内容は江戸小松川から成田までの各地の名所、旧跡などを図版入りで記した名所ガイドともいえるものです。その図版が非常にわかりやすく、各宿場の町並みや牧の様子など、展示や本によく使われています。また、大野政治先生による翻刻本が、昭和48年（1973）に出されています。

これまで著者については、成田山で重要な役を務める寺侍であった中路定得、定俊の親子とされていました。しかし、成田山仏教研究所が現代語訳を進められたところ、この著者に疑問を持ち、編集に当たられた湯浅吉美、若杉哲男の両氏と太田次男先生は、「下総旧事考」を表した佐原の清宮秀堅ではないかと考えられました。そこで、酒井先生が清宮家文書を長年にわたって調査を続けているところから、ご相談を受けられたとの事。1万点を越す大量の文書群である清宮家文書の中から、関係史料も確認することができ、実際の著者が清宮秀堅であることが分かった上に、地域や人物の関わりなども知ることができたということです。このことは、成田山仏教研究所の『現代語訳成田参詣記』のあとがき、『千葉県の歴史資料編 近世6（下総2）』の「『成田名所図会』の著者は誰か」に紹介されています。

この他、近世の房総の文化全般に触れていただき、時間いっぱいまで質問もいただいて、とても盛況なうちに終了しました。



児童講座

「化石・コハク・ふしぎな石？」 -コハクの原石をみがこう-」

坂口 美佳子 氏(科学読物研究会会員)



講座に参加した子どもたちは、みんな化石や恐竜が大好きで、とても物知りでした。先生の質問に対しては、図鑑を読んだり恐竜展などを見て得た知識を存分に披露して、回答してくれました。

そんな子どもたちの目が一番輝いたのは、先生が持ってきてくださった珍しい石や化石(雲母、化石、隕石、アンモナイトなど)に触れた時です。博物館でしか見られないような、大昔に生きていた生き物の化石を目の当たりにすると、子どもたちだけでなく担当職員もワクワクしたほどです。さらに、2cm角ほどの小さなコハク(琥珀)の原石が子どもたち一人一人に配られ、それを水ヤスリでみがき、おみやげに持ち帰りました。コハクはアクセサリーとして広く知られていますが、もともとは「昔の木の樹液が固まった化石のなかま」です。大昔の時代に生きていた虫や植物、空気のつぶが入っているものもあり、虫めがねでじっくりと観察しました。

参考になる本

「川原の石ころ図鑑」
「石ころ地球のかけら」
「琥珀 永遠のタイムカプセル」
「化石はおしえてくれる」
「地層と化石でタイムトラベル」

渡辺一夫
桂雄三
ロス
アリキ
地学団体研究会

ボプラ社
福音館書店
文一総合出版
リブリオ出版
大月書店

た、雲母をまち針で薄くはがしたり、方解石をたたいて四角に割れることを確かめるなど、たくさんの楽しい実験をすることができました。

赤ちゃんも絵本が大好き Part 9

「たんたんぼうや」 かんざわとしこ／ぶん やぎゅうげんいちろう／え
福音館書店

たんたんぼうやが あるけばたんたん あとからだれかも たんたんたん。
おさるやうさぎ、らいおんも登場して、きやつきやつ、ぴょーん、がおーつ、わおーおん。
思わず一緒に口ずさみたくなる、リズムが楽しい元気な絵本です。



「かおかおどんなかお」 柳原良平／作・絵

こぐま社

丸い顔に、目がふたつ、鼻と口はひとつずつ。ページをめくると、いろんな形に変化したいろんな顔が出てきます。たのしいかお、かなしいかお、わらったかお、ないたかお…そして最後は、さよならおしまいのかお。次々に出てくる顔は、ほらまるで赤ちゃんの顔みたい!!



編集後記

3月27日に大栄町と下総町が加わって、新たな成田市が誕生します。

これから図書館を利用される市民も増え、地域の情報拠点としての役割もますます大きくなります。図書館では毎年、各種の講座を開催しています。興味をひくものがありましたら、お気軽にご参加ください。

成田市立図書館だより

発行 成田市

編集 成田市立図書館

〒286-0017 成田市赤坂1-1-3

☎0476-27-4646

発行日 2006.3.1

登録番号 成教図05-041